

令和 2 年度学校関係者評価表

令和 3 年 6 月 25 日

構成員 4 名 学院教職員以外の有識者（法人本部長、法人看護部長、社会保険労務士、卒業生代表）

評価領域ごとの学校関係者評価・意見

基準 1 教育理念・目的・育成人材像	・新型コロナウイルス感染症が広がる中、学生の安全で良好な学習環境の提供に努力されている。オンライン授業など、実習施設の協力を得ながら、実習に関する勉強会の開催等に力を入れている。
基準 2 学校運営	・公募制推薦入試実施の取り組みにより、入学生の確保ができています。また、人事・給与に関する制度も定められている。人事考課制度による評価も行われている。
基準 3 教育活動	・国家試験形式での練習問題を提示することで、国家試験内容を日頃から意識化することができている。また、未だ収束の見えない新型コロナウイルス感染の中で、如何に学生に実際の看護を理解させるか、苦勞しながら実施されている。脱落者がでない様に、更なる工夫をお願いしたい。 ・臨地と学校との交流を深めるため、「指導者会議」以外に本音を語れる会が年に 1 回でもいいので、あればいいと思う。
基準 4 学修成果	・設置法人に医療・福祉上関係の施設が多いことが強みであり、就職に対しても希望する施設への就職が可能となっている。また、就職後も実習指導に訪れる教員に会えることも、卒業生の意欲に繋がっている。 ・未履修科目を有して、臨地実習に参加できない学生、進級できない学生に対して、更なる手当をお願いしたい。 ・コロナ禍での体験は学生にとってマイナス部分だけがクローズアップされがちだが、学内での事例展開が様々な応用思考へと導かれる事を期待している。 ・就職率 100%は評価できる。教職員の努力の成果と思われる。ただ、本年の卒業生の中にはコロナ禍の影響で実習などが十分でなく、自分の知識、技術に対して不安を持ちながら就職した者も少なくないと思われる。設置法人に就職した者には関係者と連携し、より細かい追指導が必要と感じる。

	・国家試験の合格率もいいと思う。該当年の不合格者も一年後に合格しており、問題ない。細かい国試験対策が一年次より立ててあり、何よりと思う。
基準5 学生支援	・学年担任制、学習支援システム、学習指導と相談できる環境が十分に整っていて、どの教員も学生との距離が近く精神的フォローが多くあった。国家試験に不合格の場合でもフォローしている面は心強いと感じた。 ・就職率は100%であり、まだまだ看護師が地域に不足している状況がうかがえる。このことを踏まえ一人でも多くの看護師が育つよう工夫をお願いしたい。 ・退学率は気になるが、徐々に減ってきているので良かったと思う。看護の魅力も現場に伝えるようにしている。 ・4回生、5回生と退学者が低減してきたことはいいことだと思う。入学後、早期に学生一人一人と面接し、職業への動機付け促進、各人が持つ弱点の発見、それへの対処、学生間の絆の促進など教員から働きかけることにより、退学率の低減を常にこころしておくことが、今後とも必要だと思う。 - 留学生はいま、各学年に一人ずついるようであるが、「国際看護学院」と名称を掲げているからもう少し、入学者を増やしてもいいのではないかと思う。意図的に増やしてないのか、それとも増えないのか。後者であれば、留学生を増やすことは本学院の今後の課題となるように思う。 - 保護者との連携は大切だと思う。コロナ禍で、保護者の来学院が困難なら、ニュースレターなど何らかの方法により、学院の方針、学生の様子など報告してもいいのではないかと思う。
基準6 教育環境	・学内の実習室環境が整っており、実際の病棟実習でも大いに役立っている。 ・オンライン授業が更にスムーズに行える環境整備をお願いしたい。
基準7 学生の募集と受け入れ	・各高校への情報提供、ホームページ上の掲載、オープンキャンパスなど実施されており、この状況を引き続き維持していただきたい。 ・学生の確保は何より大切だと思う。負担になるだろうが、訪問する高校の地域を少し広げるとか、社会人の入学を促進するため、定時制高校、通信制高校への働きかけも考慮してもいいのではと思う。

基準 8 財務	・母体法人の経営状態も良く、学院運営に関しては何らの問題も無いと思う。
基準 9 法令等の遵守	・適正な運用がなされている。
基準 10 社会貢献・地域貢献	・学院生活での地域住民との関わりや、看護体験に関しては看護師としてのコミュニケーション能力の向上にも繋がったと感じた。 実際に韓国の大学との交流を行い、それぞれの国の医療を体験する機会があるのはとても興味深く感じた。 ・新型コロナウイルス感染症まん延の中、社会貢献・地域貢献活動が制限を受けている状況である。新型コロナウイルス感染症が収まった段階での活動計画を作成していただきたい。

—学校関係者 総括—

平成28年に開校した本学院は、今年度6回生を迎えました。入学試験に関しては、定員に対し約2倍の出願・受験者を得ています。さらに広報活動を充実し、量・質ともに充実を図っていきます。入学後は本学院の特徴である学生－教員間のきめ細やかな関わりを強化して、学業不振やメンタル面のフォローに力を注ぎ、退学率や進級不可となる学生の減少を目指したいと思っております。

令和3年度は第5次カリキュラム改正となります。本学院にとっては、開校から現在までのカリキュラムの評価の良い機会となりました。改正のねらいである「臨床判断能力」「多職種連携」「コミュニケーション能力」「ICT活用能力」等を軸にカリキュラム再構築を行っています。

また、令和3年度は新型コロナ感染症との闘いの年でもありました。感染対策を講じながら、安全で安心できる、そして卒業時の到達目標を達成できるよう、学習環境を整えているところです。これからもご支援の程、よろしくお願いいたします。

ご協力ありがとうございました。